

# 平成二十八年事業の概要

## 平成二十八年「肥後医育 塾」年間テーマ「身近な病 気と家族の健康」を開催

常任理事(事業担当) 遠藤 文夫

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、(公財)肥後医育振興会、(一財)化学及血清療法研究所及び熊本日日新聞社の主催で、平成二十八年度も市民公開セミナー「肥後医育塾」を開催することになりました。「身近な病気と家族の健康」を年間テーマとしました。

各世代で直面する様々な健康問題。様々な病気が身近に存在し、誰にとっても無関係ではありません。自分自身ばかりではなく家族の健康を守るためにも、病気のことを知っておきたいものです。

そこで今年度は、「身近な病気と家族の健康」をテーマに、年間三回のセミナー(第五十八回〜第六十回)を実施します。「認知症」「糖尿病」「子どもの健康」を取り上げ、誰にとっても身近に起こり得る病気や健康について学びます。

第五十八回は、九月十八日(日)に鶴屋ホールにおいて、第十七回日本早期認知症学会学術大会と共催で「認知症く上手な予防、上手な介護」と題して、金

谷天満宮の陽宮司によるアルツハイマーの妻を介護した経験を語っていただく記念講演の後、早期発見の重要性や予防策と治療法、家族や地域がどのように支えていけばよいのかなどについて専門の先生方に講演をいただきました。

約四〇〇人の来場者があり、内容を、十月十九日の熊日新聞紙面に掲載しました。

第五十九回は、十一月十四日(月)にくまもと県民交流館パレアにおいて、熊本糖尿病対策会議と共催で「糖尿病を考える(仮題)」と題して、糖尿病は自覚症状が少ないために、受診をしない人も多く発見が遅れることもあり、その症状や対処法、予防法などについて講演をいたいただきます。

内容を、十二月中旬の熊日新聞紙上に掲載する予定です。

第六十回は、二月十二日(日)にホテルニューオータニ熊本において、「健やかな子どもを育てる(仮題)」と題して、子どもを取り巻く健康問題や環境について、発達障害、食物アレルギー、予防接種等について講演をいただきます。

内容を、三月中旬の熊日新聞紙上に掲載する予定です。

## 総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

本年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド判十六頁三十五万部発行)の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を担当いたします。昨年度と同様に、メインの記事として医学医療関連の「元気の処方箋」を毎号掲載いたします。また、「子育て応援クリニック」(小児科医による解説)(十面)も、読者からの希望が多いとのことで、毎号の掲載といたします。「慈愛の心医心伝心」(女性医療人によるリレーエッセイ)(十一面)はこれまで通り八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)掲載いたします。「四季の風」(季節の新作俳句)は、これまで同様四回(四、七、十、一月)掲載いたします。

なお本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることにしております。

## 「第七回熊本県医療人育成総合会議」の開催予定

副理事長 山本 哲郎

テーマ:「熊本地震―大災害における医療と医育―」

巨大地震による被害とライフラインの切断、医療機関や医育機関の機能不全等、同時に多くの障害が引き起こされました。今回の医療人育成会議では、被災地における医療人が大災害時に対応すべき事項について、災害対策システムの構築、災害派遣医療チーム(DMAT、JMAT等)との連携、医療施設の免震構造、行政との医療連携、医療チーム内の連携、感染の予防と対策、等を中心に、救急医療から亜急性期医療、慢性期医療に至るまで、多面的に課題を抽出し、その対応について、熊本の医療機関や医育機関の実務者から報告いただき、参加者とともにディスカッションをしていただきます。

この災害での互いの経験を紹介しあうことで、熊本地域の医療機関や医育機関での被害と医療への対応を整理して、医療人であり被災者でもあった私たちが大災害時にとるべき行動について再考察して、そのアイデアを医療人育成に応用することを本会議の目的と致します。また、その記録を残し、他の地域の同胞にもお知らせして未来の災害対応の指標としていただくことも目的と致します。

実施日時:平成二十八年十二月十日